

協定留学体験記

●留学先 : ノーザンケンタッキー大学 (アメリカ)

●留学期間 : 2019年8月～2019年12月

●学部・学科 : 人文学部 英語英米文化学科

●留学時の学年 : 3年



「Why are you here?」

現地での授業中、突然アメリカ人の教授がスライドを再生する手を止めて、我々21人のクラスメイト全員に向かって問いかけた。「あなたはなぜいまここにいるのか？なぜここで勉強しようと思ったのか？」わたしはこの4か月間半もの間、ノーザンケンタッキー大学に協定留学して、グローバル社会でリーダーシップをとって生きていくために必要なことを2つ学んだ。それは、「いまなぜ自分はここにいるのか？」と問い続けることの大切さ。そして他者の違いを認め、受け入れる寛容さである。

私がノーザンケンタッキー大学に留学を決めた理由は、自分の夢をかなえる道筋を見つけるためである。

その夢とは、エンターテインメントの世界をより多くの人にとってもっと身近な娯楽にすること。そうして地域格差をなくして、日常生活にエンターテインメントが溢れる、自己表現に寛容な社会を作ることである。なぜならば、エンターテインメントの世界はすべての人に生きる希望を与え、世界をより明るく導くことができると、私が身をもって体験しているからである。だからノーザンケンタッキー大学では、

Theaterの基本を歴史や論理を通して学ぶ Theatre Appreciation、

世界中の Theatre の情勢や歴史を学ぶ Introduction to Theatre in World Cultures

ミュージカルやストリートプレイの台本の分析を通してジェンダーや、人種差別の歴史について研究する Race, Gender, and Theatre

世界経済と情勢を「格差」の観点から学ぶ Global Inequalities

そして留学生用のライティングの授業 College Writing の5つを履修した。

5つ履修した全ての授業内容が大変興味深く、本当にやりたかったことを学ぶことができる環境に身を置けることに幸せを感じながら履修していた。1週目はケンタッキーなまりの英語を聞き取ることが大変難しく、授業中に挙手して自らの意見を発することが出来なかった。グループディスカッションになると、クラスメイトがナチュラルスピードで話す英語が聞き取れず、会話に参加することが出来ない。いかに自分がわかりやすく話されているスタンダードな英語しか勉強して来なかったのか、勉強不足を実感した。しかし2週目はその悔しさをばねにして勇気を出して意見を述べたり、友達を作って積極的に話すことでリスニング力と会話を向上させた。5つのクラスのうち3つは全てディスカッション形式の授業であった。グループおよびクラス内でのディスカッションで積極的に発言することを通じて、忍耐力及び諦めない心が養われた。授業に貢献できたと感じられたのは「Introduction to Theatre in World Cultures」の講義でのクラスディスカッションである。9月のテーマは「Japanese Theatre」であったため、能や歌舞伎・宝塚についてクラスで討議する中で、クラスメイトのみならず教授からも質問攻めだった。特に伝統芸能に関しては自らの勉強不足を痛感したため、予習を欠かさなかった。世界の Theatre について勉強し日本で広めていくためには、まずは自国の文化について

自らがエキスパートにならなくてはならない。「日本人代表」として、たった一人の留学生としてその講義を受けるにあたって、責任をもって勉強に励んでいかなくてはならないと実感した。講義終了後、教授にあなたの知識で授業を助けてくれてありがとうと言われたときはすごく嬉しかった。

「なぜここで勉強しようと思ったのか？」という教授の問いに対して私は、自信を持ってその夢を叶えるため、そのために Theatre を多角的な観点から勉強したくてノーザンケンタッキー大学を選んだこと、そしてその中でも最も基本となる論理を英語で学ぶことに「興味」があり、この授業を選んだこと、を一通り話した。私を含めたクラス全員の回答を聞いた後、教授は真剣な顔つきで、言葉をひとつひとつ選びながら私たちに向かって言った。「あなたはいまなぜここにいるのか？なぜここで勉強しようと思ったのか？その問いに答え続けること、そして勉強することは、自分とは何者であるか、これからどう生きていきたいのかを知ることに繋がる。」これは留学先の授業だけでなく、武蔵大学での授業、そして今後の人生を生きていくためにとっても大切なことだと感銘を受けた。こうして NKU の授業は私にとって興味のあること、勉強したいことをただ学べるだけでなく、人生とは一生の勉強である、という大切なことを教えてくれた。

2 つめに学んだ大切なことは、違いを認め、深い愛情をもってその違いや他人を受け入れることである。留学する前は、単一民族単一言語の国家の日本ではどうしても、出る杭は打たれ、他人と違わずに、均等さを持って他人と共存していくことを強られる国であることに、息苦しさを覚えていた。人と違うことは個性ではなく社会不適合者だとみなされ、東京という都会に行けばみな標準語を話すことを強られる。しかし、アメリカのケンタッキー州及びオハイオ州で、私はとても笑顔が素敵な人達に出会った。彼らはクリスチャンであり 20 人ほどの NKU の学生団体である。その中には白人もいれば、黒人、アジア人、中東人、アフリカ人、といった様々な人種が肌の色や国境を超えて、当たり前のように仲良く存在していた。この団体のみんなは、出会った当初、アクセントが上手く聴き取れずに英語力に自信を無くしていた私を暖かく受け入れ、アジア人という文化の違いや私の Japanese English をも認め、キリスト教信者の有無関係なく、私を大きな愛で包み込んでくれた。彼らとの交流を通して、私は深い愛情を持って他人の違いを受け入れることの大切さを学んだ。彼らは純粋に多様性を認め、その文化や言葉の違いをも楽しみ、他人に愛を持って接していた。グローバル社会において理想とする世界がここにはあった。将来は彼らのように他人の違いを強制することなく、その違いを認め、大きな愛を持って世界の人と接していきたい。

このように私はこの 4 ヶ月間で人生において大切なことを 2 つ学んだ。常に自分がなぜここにいるのか、存在意義と目的を意識して生活すること、そして愛を持って他者の違いを認め受け入れる寛容さを持ってこれからのグローバル社会でリーダーシップをとる存在になりたいと強く願う。

